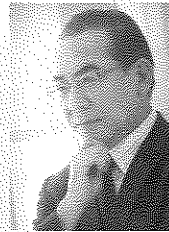


～ 昨日の風 明日の風 ～
**経営コンサルタント
 独白録**

[第114回] インプットとアウトプット



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、(株)経営改善支援センター(福岡市: URL: <https://sien.co.jp/>)代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

人間の成長にとって大切なことは「インプット」と「アウトプット」です。

人間は生物なので食物を必要とします。それは必須栄養素を摂取するためです。蛋白質、脂肪、炭水化物の三大栄養素のほかに、ミネラル(無機質)、ビタミンなども必要でしょう。これを直接、インプットしなければ、人間は生きていくことができません。たとえば、日本における未婚男性の死亡年齢の中央値は約67.2歳です(2020年人口動態調査より)。理由は様々ありますが、まず挙げられるのが不規則な生活と偏った食生活にあると言われています。67歳という年齢は、世界でも平均寿命が短くアルコール依存症の割合や自殺率の高いロシアの平均寿命と同じです(ロシア男性67.3歳)。適切なインプットと言うものが、どれだけ大切かと言うことを理解していただけるでしょうか。つまり不摂生・不健康な生活をインプットすると、早逝としてアウトプットされると言えます。

経験という名のインプット

また人間は経験の生き物なので、脳内へのインプットも大切です。適切な情報とそれを活用するための体験が必要です。

情報とは人の話や書籍、今であればメディアやネットからのものも多くなっています。体験は世代や環境によって異なりますが、「自らの実感」と「他人の経験を共有する」ことによって得られます。こうしたものが脳内に蓄積されることによって、目の前の出来事を処理することや未来を予測することにつながるのです。

その時、大切な事は「良質な情報」と「格上の人と付き合う」と言うことです。格上とは自分から見たとき、「すごいな」とか「敵わないな」と思えるような人物のことです。素直に尊敬できる人と言っても良いかもしれません。そうした人たちと付き合うことによって、より良質な情報を得ることもできます。

格上と向き合う

しかし、「格上」と付き合うのは大変です。自

分とはレベルが違うので、着ているものや食べているものが違う。話している内容も違えば乗っている車も違う。何よりも人生や生活の規範や価値観が違うので仕事のやり方も遊び方もその人が付き合っている人達まで違う。そういう人と付き合うためにはこちら側がレベルを相当上げなければなりません。

それに対して「同格」や「格下」と付き合うのは楽です。口調もタメ口や命令で構わないし、なおかつまったく気を使う必要もありません。大きな顔は出来るし、自分を改める必要がないのです。つまりインプットとして低いものを取り入れてしまっているわけで、そこから出てくるアウトプットのレベルも総じて低くなってしまいます。

最近の若い人たちの多くはこの「楽なインプット」を選ぶ傾向があります。本来“良い資質”を持っているように見える人たちが成長できず、組織の底辺に定着し、社会の中で良いポジションが取れなかった理由はそこにあります。

清潔な服装、きちんとした挨拶、丁寧な言葉遣い、人の話をきちんと聞く、人に優しくする、率直さ、素直さ、好奇心、リスペクト精神、自制心、意識した発言、向上心、調和した挙措動作…。

こうしたものは以前なら改めて教える必要のないことでした。家庭や学校教育、社会の中に自然に本来あるべき姿が存在したのですが、現在では希薄になってしまいました。

朱に交われれば赤くなる

普段どのようなものを「インプット」しているかで、個人の未来も組織の未来も決まってしまう。意識の低い組織には「意識の低い人」が集まります。不思議なことに意識しておかないと、人間の集団は似たような価値観の人の集まりになります。「朱に交われれば赤くなる」類は友を呼ぶとは本当のことです。こうした当たり前のことをきちんと若い世代に教えることもまた、経営者や経営幹部の大切な仕事となりました。組織風土を整え、組織が生き残るためには手が抜けません。